

# 日本史 B

(解答番号  ~ )

**第1問** 法や刑罰・訴訟の歴史に関するA～Cの文章を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 17)

A ㉑ 古代の律令制においては、笞・杖・徒・流・死の五刑が定められ、罪の軽重にしたがって処罰された。ただし、貴族や官吏は、重い罪でない限りこの刑には処せられず、免職や罰金で済む特権があった。

平安中期以降、朝廷は律令の後身として公家法を整え、また、荘園領主のもとでは本所法が用いられるようになった。鎌倉幕府は御家人の訴訟や裁判に関する制度を整え、武家の基本法として御成敗式目を定めた。こうして、中世には、それぞれの社会で公家法・本所法・武家法が適用され、いくつかの法の体系が並存する状態になった。しかし、㉒ 地頭のなかには、それらの法に従うことなく荘園の農民を使役し、私的な制裁を加える者もいた。

問1 下線部㉑に関連して述べた次の文I～IVについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- I 律は、犯罪とそれに対する刑罰について定めた法典である。
- II 令は、犯罪とそれに対する刑罰について定めた法典である。
- III 治部省は、刑罰に関する政務を担当した。
- IV 刑部省は、刑罰に関する政務を担当した。

① I・III      ② I・IV      ③ II・III      ④ II・IV

問 2 下線部⑥に関連して、地頭の悪政について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 弾正台は、地頭の悪政を取り締まるため、朝廷が設置したものである。
- ② 尾張国郡司百姓等解文は、地頭の悪政を列挙して、その罷免を求めたものである。
- ③ 二条河原落書は、地頭の悪政を鎌倉幕府に訴えたものである。
- ④ 紀伊国阿氏河荘民の訴状は、地頭の悪政を荘園領主に訴えたものである。

## 日本史B

B 戦国時代の大名のなかには、領国支配の基本法である **ア** を制定する者もいた。これは家法、または壁書などともよばれ、その内容は家訓的なものから、軍事・刑事・民事など多方面にわたるものまでであった。

江戸幕府は、武家諸法度や禁中並公家諸法度などを制定して、諸大名や朝廷を統制した。また、諸藩でも定書や触れを出して家臣や領民を統制し、百姓や町人たちに対しては、相互の争いごとを解決するための訴訟制度を整えた。 **イ** は、それまでの法令や判例を集大成したり、裁判や刑罰の基準となる公事方御定書を制定したりした。このように、㉞江戸時代には法にもとづく政治や社会の制度が整えられていった。

問 3 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **3**

- ① **ア** 分国法      **イ** 徳川吉宗      ② **ア** 分国法      **イ** 徳川綱吉  
③ **ア** 一国一城令      **イ** 徳川吉宗      ④ **ア** 一国一城令      **イ** 徳川綱吉

問 4 下線部㉞に関連して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **4**

- Ⅰ 金銀貸借についての争いが続発したため、幕府は相対済し令を出し、貸借に関する訴訟を受け付けず、当事者間で解決させることにした。  
Ⅱ 幕府は、江戸での訴訟が続発したため、人返しの法を発して、国元の大名に裁判を担当させた。  
Ⅲ 幕府や諸藩は、村人に五人組をつくらせ、年貢の納入や犯罪の防止に連帯責任を負わせた。

- ① Ⅰ 正      Ⅱ 正      Ⅲ 誤      ② Ⅰ 正      Ⅱ 誤      Ⅲ 正  
③ Ⅰ 誤      Ⅱ 正      Ⅲ 誤      ④ Ⅰ 誤      Ⅱ 誤      Ⅲ 正

C 明治政府は大日本帝国憲法を制定し、民法などの基本的な法典を整備したが、国民は天皇の臣民とされ、その権利は大きな制約を受けていた。

㉔ 第一次世界大戦後には、普通選挙法が成立し、労働運動の高揚や都市問題に対処するため、健康保険法などによって労働者の健康保持や生活保護を目的とする社会立法の整備がはかられた。しかし、他方では治安法規が強化され、労働者の団結権などの法的な権利は未確立のままであった。

戦時体制下では、国民健康保険法や母子保護法など社会福祉的な性格をもつ法律も制定されたが、それらは国家総動員のための人的資源の確保をねらいとするものであった。㉔ 第二次世界大戦後の諸改革によって、生存権を含む基本的人権が法的に確立された。

問 5 下線部㉔の時期から第二次世界大戦敗戦までの法と社会について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① 社会運動の取締りにあたる特別高等警察(特高)が全国に設置された。
- ② 十月事件などによって、自由主義的な思想・学問の弾圧が強化された。
- ③ 労働者の争議権を制限した治安維持法が制定された。
- ④ 無政府主義を掲げる政党が、衆議院に進出した。

問 6 下線部㉔に関連して、戦後における法と国家体制について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① 日本の主権は、北海道・本州・四国・九州と、連合国の定める諸小島に限定された。
- ② 日本国憲法は、GHQ案をもとに日本政府によって起草され、帝国議会の審議を経て制定された。
- ③ 教育の民主化を進めるため、都道府県・市町村に公選の教育委員会が設置された。
- ④ 労働基準法によって、労働者の団結権・団体交渉権が保障された。

第2問 古代の政治と文化に関するA・Bの文章を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 17)

A 6世紀後半以降、蘇我氏は天皇家と積極的に姻戚関係を結んで長く外戚としての地位を占め、朝廷にあっては大臣の地位を独占した。その権勢は天皇家をしのぐほどとなり、対立者を武力で滅ぼすこともしばしばであった。592年、馬子が甥の崇峻天皇を暗殺し、姪の  を即位させた事件はその一例である。このような強硬手段の多用は、やがて645年の蝦夷・  父子の滅亡を招く一因となった。

一方で蘇我氏は、早くから渡来人と密接に結びつき、国外の先進的な知識を吸収して旧来の政治機構の改革を志向したことでも知られる。蘇我氏のこのような開明的な性格は、6世紀末から7世紀前半にかけて、馬子が聖徳太子と協力して国政改革に意欲的に取り組んだことによく表れている。事実、①この時期には、後世の政治に大きな影響をおよぼす政策が次々に打ち出されていった。また、外来の仏教を早くから積極的に受け容れた蘇我氏は、日本最初の仏教文化、すなわち ②飛鳥文化の開花に大きく貢献した。

問1 空欄   に入る人物の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |      |   |    |   |   |      |   |    |
|---|---|------|---|----|---|---|------|---|----|
| ① | ア | 推古天皇 | イ | 稲目 | ② | ア | 推古天皇 | イ | 入鹿 |
| ③ | ア | 皇極天皇 | イ | 稲目 | ④ | ア | 皇極天皇 | イ | 入鹿 |

問 2 下線部①に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

- ① 5世紀以来とだえていた中国との交渉が、遣唐使の派遣により再開された。
- ② 豪族を官僚として編成するために、官位相当の制が定められた。
- ③ 官僚としての心構えなどを説いた憲法十七条が制定された。
- ④ 天皇の地位や由来、国家の歴史を明らかにするものとして『日本書紀』が編纂された。

問 3 下線部②に関連して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 氏寺が豪族の権威の象徴となった。
- ② 仏像の様式には中国南北朝時代の影響が認められる。
- ③ 聖徳太子は経典の注釈書である三経義疏を著したと伝えられている。
- ④ 若草伽藍跡の発掘により、現存の法隆寺の伽藍は創建時のものであると判明した。

## 日本史B

B 810年、武力をもって **ウ** との対立を解消した嵯峨天皇は、強い権力を握って国政を指導し、桓武天皇以来の方針を継承して、**㉓** 律令国家再建のための諸政策を積極的に実施していった。以後、嵯峨天皇が842年に上皇として没するまでの30年ほどの間は、古代においては珍しく大きな政争がない時代であった。これは嵯峨天皇が在位中はもちろん、讓位後も引き続いて政治の実権を掌握し、皇族・貴族らの力をよく抑えたことによる。その嵯峨天皇の政治を支え、天皇家と緊密な姻戚関係を結んだのが、藤原冬嗣である。**㉔** 藤原北家発展の礎はこの時代に築かれた。

またこの時代は、勅撰漢詩文集が編纂されたり、宮城の門号・殿舎名が唐風に改称されたりするなど、唐文化の摂取・模倣の傾向が著しい。唐風化を推進した嵯峨天皇自身、唐風の書の名手であり、**エ** の一人に数えられている。

問4 空欄 **ウ** **エ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の**①**～**④**のうちから一つ選べ。 **10**

- |   |   |      |   |    |   |   |      |   |    |
|---|---|------|---|----|---|---|------|---|----|
| ① | ウ | 孝謙上皇 | エ | 三筆 | ② | ウ | 孝謙上皇 | エ | 三蹟 |
| ③ | ウ | 平城上皇 | エ | 三筆 | ④ | ウ | 平城上皇 | エ | 三蹟 |

問5 下線部**㉓**に関して述べた文として正しいものを、次の**①**～**④**のうちから一つ選べ。 **11**

- ① 畿内に直営の公営田を設置して、租税を確保しようとした。
- ② 8世紀以来出されていた格と式を、延喜格式として編纂した。
- ③ 錢貨の流通を促すために、蓄錢叙位令を施行した。
- ④ 京内の治安維持を目的として、檢非違使を設置した。

問 6 下線部④に関連して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 12

- Ⅰ 光孝天皇の即位に際して、藤原基経がはじめて関白に任じられた。
- Ⅱ 藤原時平らの策謀によって、右大臣菅原道真が大宰権帥に左遷された。
- Ⅲ 幼少の清和天皇が即位したのち、藤原良房が臣下としてはじめて摂政をとめた。

① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ

② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ

③ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ

④ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ



第3問 中世に関するA・Bの文章を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。

(配点 17)

A 武家政権の成立期には、院と武士との間で、さまざまな協調や対立がみられた。保元・平治の乱に勝利して政治的地位を高めた平清盛は、当初、後白河上皇(のちに法皇)と協調したが、やがて両者は対立するようになり、㉑1179年、清盛は法皇を幽閉した。

しかし、平氏一門の専横に対して地方の武士たちの不満が高まり、彼らを組織した源氏の一族が各地で蜂起した。そのうち、源頼朝のいとこであった  は、いち早く上洛し、清盛の死去もあって弱体化していた平氏を京から追い出した。彼が後白河法皇と対立すると、頼朝は法皇と結び、弟の範頼・義経を派遣して  を討たせ、ついで平氏を滅ぼした義経も失脚させた。

頼朝が開いた鎌倉幕府では、彼を継いだ2代将軍  が失脚し、実朝が3代将軍となった。実朝は後鳥羽上皇と密接に提携し、政治面はもとより、㉒和歌を通して交流した。

問1 空欄   に入る人物の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |     |   |     |   |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 源義仲 | イ | 源頼家 | ② | ア | 源義朝 | イ | 源頼家 |
| ③ | ア | 源義仲 | イ | 源義家 | ④ | ア | 源義朝 | イ | 源義家 |

問2 下線部㉑の事件後に清盛がとった行動を述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 清盛は、奥州の藤原泰衡を攻め滅ぼした。
- ② 清盛は、この事件で没収した所領に新補地頭を任命した。
- ③ 清盛は、自身の拠点である福原への遷都を計画した。
- ④ 清盛は、さかんに造寺・造仏を行い、法勝寺を造立した。

問 3 下線部⑥に関して、鎌倉初期の和歌や歌人について説明した文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 実朝は、自身の和歌集『金槐和歌集』を残している。
- ② 藤原家隆は、自身の和歌集『山家集』を残している。
- ③ 『新古今和歌集』は、後鳥羽上皇の命で編集された。
- ④ 『新古今和歌集』の撰者せんの一人に、藤原定家がいた。

## 日本史B

B 鎌倉時代における守護の権限は、原則として  に限定されていた。しかし、鎌倉末期に刈田狼藉の取締りが加えられたのをはじめ、守護の権限はしだいに拡大されていった。

この傾向は㉔南北朝の動乱を通して一層強まり、室町幕府は  も守護の権限に加え、さらに半済令によって、守護が荘園・公領の年貢の半分を兵糧米として徴収することを認めた。

このほか、室町時代の守護は、国家的な事業に際して費用を荘園・公領に賦課する段銭の徴収なども行った。こうして、㉕権限を大きく拡大した守護は、国人を家臣化して守護領国を形成した。

問 4 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウ 新恩給与      エ 使節遵行
- ② ウ 大犯三カ条      エ 使節遵行
- ③ ウ 新恩給与      エ 徳政
- ④ ウ 大犯三カ条      エ 徳政

問 5 下線部㉔について説明した文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① この動乱の時代、武家社会では、しだいに分割相続が一般化していった。
- ② この動乱の時代、さかんに荘園が寄進され、荘園公領制が成立した。
- ③ 足利義満は、雑訴決断所を設置し、この動乱で激増した訴訟に対処した。
- ④ 足利義満は、南朝と北朝の合体を実現し、この動乱を終息させた。

問 6 下線部㉔に関連して、室町時代の守護の権限や国人との関係について説明した文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 守護が吸収した権限のなかには、それまで諸国の国衙がもっていた機能も含まれている。
- ② 守護は、守護請によって、荘園や公領における年貢の徴収も請け負うようになった。
- ③ 国人は、しだいに地縁より血縁で結合し、惣領を通して守護に組織されるようになった。
- ④ 国人のなかには、国人一揆を結成して、守護の支配に抵抗する者もあった。

**第4問** 江戸時代の社会・政治に関するA・Bの文章・史料を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 17)

A 次の史料は、1861年(文久元年)11月7日の武蔵国多摩郡連光寺村(現東京都多摩市)の百姓の日記の一節を現代文に訳したもので、㉑ 関東取締出役が管轄した村々の様子を示している。

今日は組合村々から一村一人ずつが出席して玉屋(注1)で集会をもった。今度の㉒ 和宮様の御下向について、取締りを嚴重にするよう役所から仰せつけがあり、それについて相談した。その結果、見張りの詰所を作り、そこに村役人と一般の百姓が毎日交代で詰め合い、昼夜見廻りするよう村々に通達することにした。なお、各組合の惣代と寄場組合の役人(注2)が組合内を見廻ることにした。

(『史料叢書5 農民の日記』)

(注1) 「玉屋」とは、日野宿(現東京都日野市)にあった宿屋。

(注2) 「寄場組合の役人」とは、関東取締出役の配下として働いた、組合の中心となる村落の有力者。

問1 下線部㉑について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

19
----

- ① 治安維持を目的に、大名が連合して設置したものである。
- ② 年貢徴収を目的に、大名が連合して設置したものである。
- ③ 治安維持を目的に、幕府が設置したものである。
- ④ 年貢徴収を目的に、幕府が設置したものである。

問 2 下線部⑥について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ  
 選べ。 20

- ① 公武合体論の具体化として、孝明天皇の妹が一橋慶喜に嫁いだ。
- ② 公武合体論の具体化として、孝明天皇の妹が徳川家茂に嫁いだ。
- ③ 尊王攘夷派の懐柔をめざし、幕府は一橋慶喜の妹を孝明天皇に嫁がせた。
- ④ 尊王攘夷派の懐柔をめざし、幕府は徳川家茂の妹を孝明天皇に嫁がせた。

問 3 次のア～エの出来事のうち、Aの史料の記述の前に起こった出来事の組合せ  
 として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 21

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| ア 薩英戦争        | イ アメリカ総領事ハリスの下田着任 |
| ウ 咸臨丸の太平洋横断成功 | エ 改税約書への調印        |

- ① ア・イ      ② イ・ウ      ③ ウ・エ      ④ ア・エ

## 日本史B

B 次の史料は、Aと同じ日記の1864年(元治元年)7月29日の記述で、ある藩が引き起こした㉔京都市街戦の状況について記したものである。

去る十九日暁方より京都において争戦これ有り。諸家御家来多く討ち死に候由。町家残らず焼失。御所並びに㉕二条等は無事。長州家来五千人程乱入の由。㉖一橋・会津・薩州・彦根等軍功これ有り候由。

問4 下線部㉔に関して、この市街戦がもたらした政治的動向を説明した文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① ただちに朝廷は倒幕の密勅を出した。
- ② 長州藩が下関海峡を通過する外国船を砲撃した。
- ③ 三条実美ら急進派の公家が京都から追放された。
- ④ 幕府は第1次長州征討(戦争)を行った。

問5 下線部㉕に関連して、京都(二条城)以外に城代が置かれたことのある都市として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 大坂
- ② 駿府
- ③ 長崎
- ④ 伏見

問6 下線部㉖について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 徳川家康の息子が興した家である。
- ② 徳川秀忠の息子が興した家である。
- ③ 徳川家光の息子が興した家である。
- ④ 徳川吉宗の息子が興した家である。

**第5問** 熊本の地方政治家・弁護士として、明治から昭和にかけて活躍した松山守善の自叙伝をもとにしたA～Cの文章・史料を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 21)

A 松山守善は19世紀後半に自由民権家として活動した。このころ熊本には、不平士族の集団である神風連に属する人々から熊本バンドを結成するキリスト教信者たちまで、さまざまな思想の持ち主がいた。のちに日本のキリスト教の指導者となる **ア** もこのバンドの一員であった。

松山は1878年に民権結社である相愛社が結成されると副社長に就任し、**a**私擬憲法の作成にも情熱を傾けた。その後、**b**第1回総選挙で当選した松山は、第一議会閉会後に得票数をめぐる訴訟において、司法の最高機関としての **イ** で敗訴し、議員の資格を失った。

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **25**

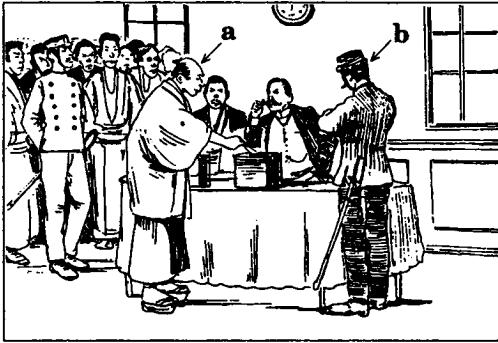
- ① ア 海老名弾正 イ 元老院      ② ア 島地黙雷 イ 元老院  
③ ア 海老名弾正 イ 大審院      ④ ア 島地黙雷 イ 大審院

問2 下線部**③**について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **26**

- ① 日本憲法見込案は、高知の立志社が作成した私擬憲法である。  
② 黒田清隆の私擬憲法は、ルソーの社会契約論をもとに作られている。  
③ 植木枝盛の私擬憲法は、人民が政府に対して抵抗する権利や革命を起こす権利を保障している。  
④ 五日市憲法草案とよばれる私擬憲法は、地域住民の共同討議の内容をまとめたものである。



問 3 下線部⑥について、次の図と表を参考にして、選挙の様子を述べた文Ⅰ～Ⅳについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 27



(『続ビゴー日本素描集』)

総人口	39,902,000人(注1)
有権者数	450,852人(注2)
投票者数	423,400人

(『日本近現代史辞典』により作成)

(注1) 1890年1月1日現在の人口。

千人未満は切捨て。

(注2) 1890年7月1日現在(総選挙当日)の有権者数。

- Ⅰ 人物aは、「直接国税10円以上を納入する者」という、選挙権資格を満たしている。
- Ⅱ 人物bは、投票の立会いをする警察官である。
- Ⅲ この時の有権者は総人口の1.1%にすぎなかった。
- Ⅳ この時の投票率は60%に満たなかった。

① I・III

② I・IV

③ II・III

④ II・IV

## 日本史B

B 日清戦争後、㉔産業革命の進展にともない、地主や資本家を支持基盤とする政党の力が増大していった。ウの立場をひるがえした政府は、政党の力を利用して軍備拡張予算案を成立させようとした。この流れのなかで、衆議院内の二大政党が合同して、新内閣を組織することになった。松山守善たち地方の政党员はこの内閣に大きな期待を寄せた。

上京した松山は、大隈重信首相に熊本県の政治状況を詳しく説明して、㉔知事の更迭を要求した。これに対し大隈は、「熊本は官僚の苗床なればこれを撲滅せねばならぬ。君ら委細のことは板垣に協議すべし。」と答えた。この時、松山たちの相談役を務めていたのは、東京で民友社を主宰していたエであった。

問 4 空欄 ウ エ に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① ウ 国粹主義    エ 高山樗牛    ② ウ 国粹主義    エ 徳富蘇峰  
③ ウ 超然主義    エ 高山樗牛    ④ ウ 超然主義    エ 徳富蘇峰

問 5 下線部㉔に関して、日清戦争から日露戦争までの間の経済上の出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① この間に、日本は債務国から債権国へと転換した。  
② この間に、企業勃興とよばれる会社設立ブームが起こった。  
③ この間に、農商務省が創設された。  
④ この間に、綿糸の輸出高が輸入高を上回るようになった。

問 6 下線部④に関連して、知事を監督した内務省や内務大臣について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 第二次世界大戦後の改革の過程で、内務省は廃止された。
- ② 第1次大隈内閣の内務大臣を務めたのは、板垣退助であった。
- ③ 内務省の権限を縮小するために、第2次山県内閣は文官任用令を改正した。
- ④ 第1次松方内閣の内務大臣品川弥二郎は、選挙干渉の指揮をとった。

## 日本史B

C 次の史料は、松山守善が書いた手紙の一部である。

㉑ 難波大助の兇悪に至っては天地の容れざる所、その肉を喰い、その血をすすするもなお足らず、もとより罪死に当たるは論ずるまでもなし。しかしこれを殺したとて国家に益する所なし。陛下無限の慈愛を垂れさせられ、これに減刑の恩典を賜らば、彼も真心悔悟して、他日善良の民となるも絶無のことにはあらざるべし。かつ彼と思想を同じうする徒輩も、聖恩の広大なるに感泣し、あるいは心を改むる者を生ずるも計り難し。 (『松山守善自叙伝』)

問 7 下線部㉑について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

31
----

- ① これは亀戸事件とよばれ、難波大助が明治天皇を狙撃した事件である。
- ② この事件の責任をとって、第2次山本内閣は総辞職した。
- ③ これは虎の門事件とよばれ、難波大助が伊藤博文を狙撃した事件である。
- ④ この事件の直後、皇位継承権を明確化するために皇室典範が制定された。

問 8 松山は、この手紙をある元老に送っている。この史料の説明文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

32
----

- ① 松山は、「兇悪」な事件を引き起こした難波を死刑にすべきだと主張している。手紙のあて先は、西園寺公望である。
- ② 松山は、「兇悪」な事件を引き起こした難波を死刑にすべきだと主張している。手紙のあて先は、後藤象二郎である。
- ③ 松山は、天皇が「無限の慈愛」を示して、難波を死刑にせず、彼の改心を促すべきだと主張している。手紙のあて先は、西園寺公望である。
- ④ 松山は、天皇が「無限の慈愛」を示して、難波を死刑にせず、彼の改心を促すべきだと主張している。手紙のあて先は、後藤象二郎である。

**第6問** 近現代の政治・社会に関するA・Bの史料を読み、下の問い(問1～4)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 11)

A 次のⅠ～Ⅳは、新聞の見出しを年代順に配列したものである。

- Ⅰ 支那軍満鉄を爆破し奉天の日支両軍激戦中 我軍遂に奉天城攻撃開始  
(『大阪毎日新聞』)
- Ⅱ 片言隻句を捉へて反逆者とは何事 美濃部博士 諄々と憲法を説き貴族院で  
一身上の弁明 (『東京朝日新聞』)
- Ⅲ 近衛総裁烈々の気魄 けふ大政翼賛会発会式 (『読売新聞』)
- Ⅳ 西太平洋に戦闘開始 布哇米艦隊航空兵力を痛爆 (『朝日新聞』)

問1 Ⅰに関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

33

- ① この事件を契機に国民党と共産党は提携し、抗日民族統一戦線が成立した。
- ② 張作霖が爆殺されたこの事件の真相を隠したことが原因となって、田中内閣は総辞職した。
- ③ 関東軍は柳条湖で鉄道を爆破し、それを中国軍のしわざとして軍事行動を起こした。
- ④ この事件から数か月後に、日本軍は華北からさらに戦線を拡大し、首都南京を占領した。

日本史B

問 2 次の新聞の見出しが掲載された時期として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

34

平沼内閣総辞職 独ソ条約の責任痛感 (『東京朝日新聞』)

① I と II の間

② II と III の間

③ III と IV の間

④ IV のあと

B 次の史料は、フランス人ジャーナリスト、ロベール・ギランの『日本人と戦争』（根本長兵衛・天野恒雄訳）の一節で、敗戦直後から約半年間の東京の様子を描いたものである。

東京は、草のように、あるいは森のように、再び生い茂っていった。この首都の灰と鉄屑てつくずの原っぱの上で、早くも三百万の人間が働き出したのだ。下層の人びとが舗道でごった返し、途方もなく大きなノミの市(闇市)をのぞきこむ。品物が直接地べたにはみ出して並べられていた。①皇居ほりの濠端をぶらぶら歩く群衆は、こぞって宮城の方ではなく米軍総司令部の方に顔を向けた。新しい日本の主人公マッカーサーが出てくるのを見たいと待ち望んでいたのである。「空の要塞ようさい」の恐怖を脱した群衆は戻ってきて、焼け跡を離れなかった住民たちに合流した。

問 3 この史料に関連して、占領期の社会状況について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① この史料は、空襲で焼け出された人たちや疎開先から帰ってきた人たちの姿を描写している。
- ② この史料のように、生活物資を売買する闇市が広がった。
- ③ 地方都市が空襲を免れていたため、日本は急速に復興することができた。
- ④ 復員した軍人や引揚者が帰国して人口がふくれあがった。

問 4 下線部②に関連して、講和条約発効以前の占領政策について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 連合国は、占領政策の最高決定機関として対日理事会を設置した。
- ② アメリカは、マッカーサーを最高司令官として直接統治を行った。
- ③ 連合国は、A級およびB・C級の戦犯容疑者を東京裁判で処罰した。
- ④ アメリカは、沖縄を日本本土から切り離し、軍政下に置いた。